



令和元年7月4日

川西町議会

議長 加藤 俊一 殿

川西町議会十四郷クラブ

代表 島 貫 偕

行政視察報告について

標記について、別紙のとおり実施しましたので報告いたします。

## 十四郷クラブの視察調査

視察 2019年（令和元年）6月29日～7月1日の3日間

参加者 十四郷クラブ会員3人

島貫 偕（代表）、高橋輝行、淀 秀夫

鹿児島県の行政視察

- 1、中山間地域等集落活性化について
- 2、世界遺産指定の屋久島縄文杉について

1についての説明者、鹿児島県総務部長・平木万世氏（中央省庁出向）

鹿児島県企画部地域政策課長・井上淳詞氏

2についての説明者、屋久杉自然館長・佐々彰聰氏

鹿児島県は九州南部の県。大隅と薩摩の2つの国で成立。全域面積9,185k m<sup>2</sup> 人口164万人。鹿児島市の人口凡そ60万人。

屋久島町は鹿児島県の大隅諸島に属する島の1つ。面積が503k m<sup>2</sup>。

### 1の行政視察

中山間地域等集落活性化指針は平成31年3月に作成された。

第一章 指針作成の趣旨

第二章 中山間地域等の集落を取り巻く状況

第三章 目指す方向性

第四章 施策展開の基本方向

第五章 集落活性化の実現に向けて

参考資料

- 中山間地域等集落の状況に関するアンケート調査概要
- 県内各地の主な活動事例
- 国、県の関連する主な事業の概要

以上、I 20ページにわたり、企画部地域政策課が纏めている。

内容の特徴として、第4章の(4)に、中山間地域等における地域リーダー等の育成について上げている。現状と課題として、人口減少と少子高齢化が進行する集落機能低下の地域間格差が顕在化している。そのため、地域リーダーの育成や支援と、各市町村やNPO等の連携が必要。行政の指導ではなく、集落の中からリーダーを育成すべきとある。

## 2.の行政視察

年間、30万人以上の観光客が訪れる屋久島縄文杉。世界自然遺産に指定されている。鹿児島市からフェリーで2時間かけて屋久島に着く。交通は不便だが多くの観光客が訪れる。島とはいえ一周100kもある島。緑の島とも言われ、中央には高さ1936mもある「宮え浦岳」が聳え立つ。冬は雪が2mも積もるとのことだった。屋久島の90%は緑の木々で覆われ、その中に推定で樹齢7200年の縄文杉がある。杉の高さが25m、周りが1.6m。また、樹齢3000年の紀元杉ともいわれる縄文杉を見、手で感触を味わった。

## まとめ

7階建ての鹿児島県庁から桜島が見え、中山間地域の過疎化に悩む川西町の実情と似た鹿児島県の現状を、井上課長の説明にあった。特に行政指導ではなく、地域集落からリーダーを育て、支援して行く事には、川西町にも必要だと実感した。

屋久島の縄文杉周辺は年中緑に覆われ、国有林でもあり環境保全の確保に行政が力を入れていた。

身近な所では、国天然記念物に指定されている「久保の桜」は樹齢1200年の古木。しかし年々老いが目立ち、めっきり花の数も減ってきている。ライトアップは良くないとの話も聞き、「光害」が問題になっているようだ。屋久島の環境保全に関しては見事だと思った。